

ジーパン

ジーンズやデニムではなく「ジーパン」という呼び名のほうが耳慣れているという人は、おそらく60代以上の方々ではないでしょうか。

アメリカ西部の開拓者たちの作業着として発達した「ジーパン」を、たとえば、カウボーイやガンマンの登場する西部劇で初めて目にした昭和の若者たちは、日本の「作業ズボン」と

は違って「なんてカッコいいんだ!」と羨ましく思ったかもしれません。



そんな日本でようやく国産のジーパンが出回り始めたのは、昭和30年代のこと。しかし、ストーンウォッシュ加工で古びた味を出すなど思いもしなかった時代、ごわごわした生地を青く染めただけの日本製に満足できない若者たちは、アメリカ製の古着を好んで探し求めたといいます。

そして現在、岡山県倉敷市児島のように「ジーンズのメッカ」として世界中のファンから崇められる生産地もあり、昭和の「日本製ジーパン」はすでに過去のものとなっているようです。

仏事の豆知識

お悔やみの言葉

ご遺族にすぐにお悔やみの言葉をかける場合は、自分の悲しく残念な思いやご遺族へのいたわりの気持ちを素直に伝えます。また、お通夜やご葬儀の後の場合は、ご遺族を励まし、自分にできることがあればお力になりたい旨を簡潔に伝えるようにします。しかし、お悔やみは言葉を優先するものではなく、真心をもって哀悼の意を表すことが何より大切です。

それには長々と述べる必要はなく、亡くなられた方との関係によって用いる言葉に多少の違いはあっても、お悔やみの言葉はむしろ「型どおり」でよいといわれます。

その理由は、故人の病名や死去の事情などを尋ねたり、避けるべき言葉(忌み言葉)を使ってしまったりというように、意図せずしてご遺族の気持ちを傷つけてしまうことを極力回避するためでもあるようです。

お悔やみの言葉の一般例としては、このたびは、誠に「ご愁傷さま」でございます。心からお悔やみを申し上げます。

・このたびは思いがけないことで、さぞお力落としてございましょう。などがあります。



生活の中の仏教語

接待

「きょうは接待役を仰せつつかっているの、のんびりとはしてられません」などという「接待」は一般に、客を手厚くもてなすことをいいます。とくに日本では昔から、相手先との取引を円滑に進めるために宴席を設けるなど「接待をするのも仕事のうち」といった考え方があり、いまでもその慣習が少

なからず残っているところもあるようです。

一方、仏教でいう「接待」は「摂待」とも表記し、各地を行脚する修行僧に門前で湯茶を供養するという、一種の



施しを意味する言葉でもあります。また、「接待」は「門茶(かどちゃ)」とも呼ばれ、盂蘭盆に仏家の門前に湯茶を用意し、寺巡りの人や往来の人びとにふるまうことを指す言葉でもありました。

四国八十八カ所の霊場に通じる街道筋の家々や道行く人たちが、お遍路さんに「お接待をする」という行為も、仏教でいう「接待」に所以するもてなしに当たるものといえます。

「午前さま」になったのは接待をしたから」といった言い訳は、どうやら俗世間でしか通用しないようです。



- くらしの知恵袋…電子レンジ…こんな技…あんな技
- 仏事のころえ…お墓を建てるには
- 昭和さんぽ…ジーパン
- 仏事の豆知識…お悔やみの言葉
- 生活の中の仏教語…接待

— 明治22年創業の信用と実績 —

墓石・採石・生コン・建設業・不動産取引業



森近石材株式会社

〒720-0311
福山市沼隈町草深2564-2
TEL (084) 987-2133(代)
TEL (084) 987-2934(夜)
TEL (084) 987-2820(展示場)
FAX (084) 987-2714

歳時記

雛祭り

住宅事情もあり、昔のように雛壇を設える家庭は少なくなってきているようですが、それでも「女の子のお節句」を祝う風習はいまも続いています。

雛祭りの起源

雛祭りが行われる3月3日は上巳(陰暦3月最初の巳の日)の節句ともいい、この日、古く中国では水辺で穢れを祓う風習がありました。

この上巳の祓いは日本にも伝わり、形代(襖に用いる紙の人形)で自分の身体をさすり、穢れを祓って水に流すという習わしが生まれたと伝えられます。そして、襖のために用いた人形(ひとがた)は、やがて飾って楽しむ人形(にんぎょう)、雛人形となり、女兒の健康と幸せを願う年中行事「雛祭り」に発展していったのです。

雛人形の移り変わり

雛人形は、室町時代には「立ち雛」が主流でしたが、江戸時代に入って「座り雛」が考案され、現在にいたります。以下にご紹介するような時代雛は、いまでも徳川美術館(名古屋)や個人で保存され、地域によっては、毎



なったのもこの時代からだといわれます。

- ・享保雛…享保年間(1716~1736)に作られ、豪商など町衆に好まれた豪華絢爛な雛。サイズも次第に大きくなって1メートル近いものまで現れ、幕府からは奢侈(度を越えてぜいたくなこと)を禁じるお触れが出たともいわれます。

縁起のいい「桃」

雛祭りは「桃の節句」ともいい、今でも桃の花を飾ります。陰暦ではこの時期、桃の花が満開で、中国では、桃の果実を食べた仙人が不老不死の力を得たという言い伝えから「仙果」と呼ばれ、また、葉や花、枝も邪気を祓い、病を防ぐ力があるとして、「仙木」と呼ばれていました。

明治になって新暦が採用された日本では、3月3日にはまだ桃の花は咲かず、栽培技術が進歩する以前は、梅の花を桃の代用に使っていたといえます。

年雛祭りの時期に一般にお披露目されることもあるようです。

- ・寛永雛…元和・寛永(1615~1644)の時代、後水尾天皇がそばに人形を置いて愛好したことが公家の間に広まり、それをきっかけに誕生したのが寛永雛だといわれます。
- ・元禄雛…徳川5代将軍綱吉の治世、文化華やかな元禄年間(1688~1704)の雛で、「雛祭り」が盛んに

電子レンジ

—こんな技・あんな技—

いまや、どこのご家庭でもなくてはならない存在の電子レンジですが、利用方法や利用範囲は各家庭によって案外まちまちで、フルに使っているというお宅もあれば、使うのは冷凍食品を解凍するときだけというお宅もあるようです。



基本の「キ」

①電子レンジの加熱時間

よく使われているオープン機能付きの電子レンジは600Wが一般的なようですので、ここに表示している加熱時間は600Wを基準にしています。ただし、機種によって加熱時間が微妙に変わってくる場合もあります。

加熱時間はあくまでも目安ですの

ご存知ですか？

—加熱むらを防ぐには—

電子レンジの中は、中央部分と周囲では加熱温度が一定でない場合があります。食材をバラバラに置いてむらなく加熱するには、中央を空けて、ターンテーブルの周囲に並べるようにします。

で、最初は表示の時間よりも少し短めにセットし、足りない場合は追加加熱するようにしたほうがよいでしょう。

なお、表示の食材の分量（重量）を2倍にしたい場合は、基本的に加熱時間も2倍になります。

②ラップのかけ方・はずし方

ラップはボールや皿の直径の倍ほどの長さに切り、ゆったりふんわりとかけるのが基本です。とくに、水を入

れたボールや水分の出るものにびったりラップをかけると、加熱中に水分が蒸発してラップが膨らみ、破裂することもあるので危険です。

また、加熱後のラップの中は高温になっていますから、急いでラップをはずすと、噴き出した蒸気でやけどをする危険もあります。加熱後は器を取り出し、少し待ってからラップをはずすようにしましょう。

“時短”の味方

電子レンジは何ととっても時間短縮の強い味方です。干しシイタケなどの乾物は「今すぐ料理にしたい!」と思っても、なかなかそうはいきません。電子レンジはそんなときのまさしく“助けの神”です。

◆乾物をもどす

〈シイタケ〉

⇒耐熱ボールに干しシイタケ数枚と水カップ1を入れ、シイタケの裏側も水に浸してから、ふんわりとラップをかけ、3分加熱した後、そのまま5分おきます。

*シイタケが肉厚の場合は、加熱時間を1分増やした後、10分おくようにします。

〈乾燥ヒジキ〉

⇒耐熱ボールにヒジキ10g、水カップ1を入れ、シイタケ同様にふんわりラップをして3分加熱し、5分おいて湯を切り、流水で洗って水切りをします。



*ヒジキはやわらかくなりやすいので、倍の量をもどすときは、水の分量だけ倍にし、時間は1.5倍で十分です。

〈切り干しダイコン〉

⇒耐熱ボールに切り干しダイコン20gと水カップ2を入れ、ふんわりラップをして3分加熱。そのまま5分おいて湯を切り、水に入れて冷ました後、水気を絞って使います。

〈キクラゲ〉

⇒耐熱ボールにキクラゲ5gと水カップ1を入れ、全体を水になじませてから、ふんわりとラップをして2分加熱、そのまま5分おいて湯を切ります。

仏事のころえ

お墓を建てるには

新しく「お墓を建てる」ということは、ほとんどの方にとって、おそらく初めて経験することではないでしょうか。そこで、お墓を建てる際の基本的な事柄をいくつかご紹介しましょう。



お墓を建てるまで

お墓を建てるには、大きく分けて次のような理由が考えられます。

- ①ご家族（ご両親や配偶者など）が亡くなった場合。
- ②自分や配偶者のためのお墓を生前に用意する場合。

②のように生前にお墓を建てておくことを「寿陵^{じゆりやう}」または「寿蔵^{じゆざう}」といい、長寿・子孫繁栄・家内円満を招く縁起の良いこととされています。利点としては、

- ・自分の好みのお墓をじっくり時間をかけて建てることできる。
 - ・家族に負担をかけずにすむ。
 - ・相続の際の節税に役立つ。
- などがあります。ただし、公営墓地などの場合、遺骨が手元にあるこ

とが条件となっているところもありますので、事前に確認をする方がよいでしょう。

お墓を建てるにあたって

実際にお墓を建てるには、まず墓地を探す必要があります。墓地には、大きく分けて運営・管理母体により公営・民営・寺院の3つの種類がありますが、お墓づくりにかけられる大まかな予算をまず決めてから、希望や条件に添った墓地選びをしたいものです。

その際、注意したいのは墓石の費用です。墓石の購入・設置に要する費用は、通常、墓地の使用料とは別です。また、墓石を発注するについては、墓地によって石材店が指定されている場合もありますが、独自に石材店を選ぶ場合もあります。



納骨について

納骨の時期には特に決まりはありませんが、四十九日の法要に合わせて行うのが一般的なようです。しかし、新しく建てたお墓がその時期に間に合わない場合などは、百か日法要や新盆、一周忌法要などの節目を目安に考えればよいでしょう。

納骨までは、遺骨は自宅に安置しますが、納骨する霊園やお寺に一時収蔵施設がある場合は、そこに預けておくこともできます。

石材店の選び方

石材店を独自に選ぶ場合には、前もって石材店の資料を集め、だいたいの費用の相場を知っておくことが大切です。その上で次のような点をチェックしてみましょう。

チェックポイント

要望や事情をよく聞いてくれるか。
質問の答えや説明の内容は十分か。
曖昧な表現や回答はないか。
過去に手がけたお墓を見せてくれるか。
見積書の内容は詳細か。
見積書の説明に曖昧な点はないか。
見積書を上回る請求の可能性はないか（あれば、その理由は明確か）。

良い石材店を選ぶことは、すなわち良いお墓を選ぶことに通じます。そのためにも、納得のいく選択をしたいものです。

また、遺骨をお墓に納めるには、「埋葬許可証」が必要です。葬儀の際、火葬場に提出した「火葬許可証」には、火葬済みの印が押されて返却されますが、その書類が「埋葬許可証」となります。

